

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。天然資源環境省森林資源管理局(MONRE-DFRM)と農林省森林局(MAF-DOF)を実施機関として協力しています。

REL/MRV 技術作業部会 第2回会合

REL/MRV技術作業部会の第2回会合が9月2日に開催され、DFRM、DOF及びその他開発パートナーを交えた総勢30名が参加しました。

今回の会合ではRELの作成に向けたスケジュールを確認し、RELドラフティングチームの設立に関して議論が交わされました。ラオスはUNFCCCとFCPF炭素基金の両機関向けに同時並行でRELを作成する予定であり、綿密な作業工程の準備と実行が求められます。また、REDD+の要件の一つである国家森林モニタリングシステム(NFMS)の段階的構築方針として、まずはMRVの機能を軸としたデザインやスコープ等の開発方針が議論されました。さらに、NFI2015□2016年乾季調査の進捗が報告されたほか、ラオス側による土地・森林分類の一部見直しや、森林減少・森林劣化・森林回復の定義の協議結果が共有されました。その他にも、技術作業部会全体の底上げと関連部局職員的能力強化機会を拡大するために、部会メンバー(現在5名)を拡充する「アシスタント」制度の導入がラオス側より発案され、積極的提案として賛同を得ました。



技術作業部会の様子



ラオスとJICA本部を繋いだTV会議

世銀 MRV 専門家との意見交換

前述のようにラオスはFCPFの準備基金及び炭素基金の双方の対象国であることから、世界銀行(世銀)を通じて様々な技術的助言を受ける機会が提供されています。その中でも、森林炭素の計測手法はREDD+の中核として日進月歩にあり、またFCPF炭素基金による成果支払いのベースとなることから、とりわけ関心の高い分野です。そのような背景から、このたび世銀からの提案でFCPFのREL/MRV専門家が入ラオスに派遣され、ラオスのREL/MRV手法に関する意見交換が開催されました。

F-REDDはラオスのREL/MRV支援を全般的に主導していることから、FCPF炭素基金向けに検討中のREL及びMRVの基本方針および個別技術についてプレゼンテーションを行いました。また、世銀専門家からはFCPF炭素基金の

Methodological Framework等についてプレゼンテーションがあり、会合に参加していたラオス政府関係者や他プロジェクトのアドバイザーを交えた質疑応答と議論が為されました。

会合の結果として、想定されているラオスのFCPF炭素基金向けREL/MRVの方向性や技術手法については概ね妥当であること、一方で個別事項についてはいくつかの課題を克服する必要があることなどを確認でき、非常に有意義でした。

FCPFとは??

Forest Carbon Partnership Facility (FCPF)は世界銀行のもとに設置された先進国などの資金拠出によるREDD+推進のための国際的な基金です。ラオス政府は2008年に準備基金(Readiness Fund)の参加国となったのに続いて、本年9月には炭素基金(Carbon Fund)の参加国にもなりました。

炭素基金は参加国がREDD+を実施した結果としての温室効果

ガス排出削減・吸収増加に対して成果支払いを行う基金です。当該基金への参加を受けてラオス政府は今後18ヶ月を目途に詳細なプロジェクト・ドキュメントを準備することになります。F-REDDは本件について構想当初よりラオス政府を支援してきており、今後もプロジェクト・ドキュメント作成全般ならびにREL/MRV等の具体的技術面で支援を行っていく予定です。

ラオス国内研修の共同実施

ラオスのREDD+を推進するために国家REDD+タスクフォース（NRTF）と6つの技術作業部会が設置されていますが、これら関係者のREDD+に関する知識及び各々の役割の理解向上が急務とされています。その一環として、F-REDDを始めとする開発パートナーとラオス政府の共同により、このたび6つの作業部会メンバー向けに国内研修が実施されました。

これらの研修を通して、各技術作業部会が相互に連携しながら体系的にラオスのREDD+を推進していくこと、国家REDD+戦略の作成過程にも各々の立場から貢献していくこと、などが確認されました。技術作業部会が本格稼動することでREDD+の個別分野について進展が期待される一方で、今後はREDD+担当部局の全体コーディネート力が一層必要となります。



技術作業部会ごとにグループディスカッション

県REDD+タスクフォース第1回会合&森林減少・森林劣化対策ワークショップ



マルチ・セクター参加のもとで開催された第1回PRTF会合

F-REDDでは中央省庁への支援に加えて、ルアンブラバン県に対して県レベルでのREDD+準備を支援しています。

本年5月に同県のREDD+タスクフォース（PRTF）及び県REDD+オフィスが設置されたことを受けて、7月28日にPRTF第1回会合が開催されました。本会合では冒頭にDFRMのREDD+担当官からREDD+の概要やラオスのREDD+の進捗状況について説明があり、またPRTFの目的や運営規約がメンバーで確認されました。

また、本年2月に行われたルアンブラバン県の森林減少要因調査結果（第2号参照）をもとに、8月5日に県レベルで森林減少の抑制や森林保全を図るための政策・活動について協議するワークショップを開催しました。ワークショップには森林管理を実際に進める県レベル・郡レベルの森林担当セクターに加えて、森林減少の要因となりうる水力発電、鉱山開発などの他セクター

も参加し、県内の森林変化の動向を踏まえた上で森林減少をいかに抑制するか、また森林をどのように保全ないしは増加させるかについて、セクターごとの対応策を協議しました。これらの議論の結果は、県REDD+行動計画の基礎として活用されます。

持続的な開発の方針のもとで森林保全を進めるには、森林に影響を及ぼす他セクターとの調整が大きな挑戦といえます。従ってこの先も森林以外に、農業や工業といった他セクターや、民衆組織や女性組織といった幅広い関係者が、ルアンブラバン県の森林管理や県REDD+行動計画の策定に向けて議論をしていくこととなります。



セクターごとの対応策の発表

成果毎の主な活動

共通の活動

- ◆ JICAウェブサイト内にF-REDDのプロジェクトページ開設（和・英）
- ◆ FCPF REL/MRV専門化との意見交換

成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆ ラオス国内研修（7月・8月）

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆ 第2回NFI 2015-2016乾季の調査とりまとめ及び2016-2017 乾季における調査準備
- ◆ RELドラフティングチーム設立にむけた支援

- ◆ 2015年森林区分図の作成支援
- ◆ NFMSの基本デザインの作成・協議

成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆ 第2回REL/MRV技術作業部会会合開催
- ◆ FCPF炭素基金のプロジェクト・ドキュメント作成に関する支援

成果4：ルアンブラバン県のREDD+準備支援

- ◆ 県REDD+タスクフォース（PRTF）第1回会合
- ◆ 森林減少・森林劣化対策ワークショップ

次期四半期のイベント

Oct

ルアンブラバン県REDD+行動計画策定に関するワークショップ
NFI 2016 - 2017年乾季調査のキックオフ及び技術研修

Nov

第2回JCC (Joint Coordination Committee) (未確定)

プロジェクトオフィス

Kouvieng Street, Sisaket Village, Chanthabouli District, Vientiane Capital, Laos Tel & Fax: 021(22)2536

プロジェクトHP: <http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

